

第2回実験動物科学シンポジウム

新たなライフサイエンス研究の展開 —鳥類リソースの整備と活用に向けて—

日時 平成25年12月9日(月)13時～17時30分

場所 名古屋大学 野依記念学術交流館

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

【交通アクセス】名古屋市地下鉄名城線「名古屋大学」駅2番出口から徒歩5分

【学内地図】<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/index.html>

主催：公益社団法人日本実験動物学会

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニワトリ・ウズラ」

共催：名古屋大学大学院生命農学研究科

参加費
無料

【開会の挨拶】八神 健一（日本実験動物学会 理事長）

【鳥類リソース】

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニワトリ・ウズラ」の現状と今後に向けて

松田 洋一（名古屋大学）

【鳥類を用いた脳科学研究】

座長 吉川 欣亮（都医学研）・笹浪 知宏（静岡大学）

生殖を抑制する新規脳ホルモンの発見と研究進展：鳥類から哺乳類への展開
モデル動物を通して明らかになった動物が季節を感じる仕組み

筒井 和義（早稲田大学）

吉村 崇（名古屋大学）

【突然変異リソースと疾患モデル】

座長 庫本 高志（京都大学）・村井 篤嗣（名古屋大学）

色素異常症の動物モデルとしての鳥類色素変異体における遺伝子解析
鳥インフルエンザウイルスのヒトへの適応性獲得の分子基盤

秋山 豊子（慶應義塾大学）

鈴木 康夫（中部大学）

Micro-Computed Tomography (micro-CT) による軟組織高速イメージング

田村 勝（理化学研究所）

【遺伝子導入システムの開発と応用】

座長 高橋 智（筑波大学）・佐藤 有紀（熊本大学）

トランスジェニックニワトリの作製・応用とその問題点

飯島 信司（名古屋大学）

鳥類多能性幹細胞の遺伝子改変技術の現状とこれから

堀内 浩幸（広島大学）

CRISPR/Cas9 人工制限酵素システムを用いたマウスゲノム編集

伊川 正人（大阪大学）

【懇親会】名古屋大学野依記念学術交流館 カフェルーム 17:30～18:30（事前登録が必要です！）
会費：2,000円

参加登録のお願い

参加は自由ですが、出来るだけ参加登録をお願いします。12月2日(月)までに
下記アドレスにアクセスして、氏名、連絡先、シンポジウムと懇親会の参加・不参加をご登録下さい。
<https://adobeformscentral.com/?f=Ylp6uyncXa0lTO%2A79aYe-w>
(ワイエルピーロクユーワイエヌシーエックスエイゼロエルティーオー)